



慢性疾患看護専門看護師について

看護部 3階西病棟 高田 亜由子

自己紹介

私は、脳の病気をもつ患者さんへの看護に魅力を感じ、脳神経領域の看護に 15 年間携わってきました。現在は 3 階西病棟で、脳神経の病気を専門分野とする「慢性疾患看護専門看護師」として勤務しています。

慢性疾患看護専門看護師は、専門的な知識や経験を活かし、患者さんにご家族が安心して治療や療養生活が送れるように支援する看護師です。患者さんの不安や思いに寄り添い、「どのような生活が送りたいのか」を一緒に考えながら、その人らしく生活できるようお手伝いしています。また、医師、看護師、リハビリ、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど、さまざまな職種の方々と連携して、よりよい医療や看護が受けられるよう橋渡し役として活動しています。

慢性疾患看護専門看護師を目指したのは、病気と向き合いながら生活する患者さんにご家族が自分らしい日々を大切にしながら、少しでも前に進めるように寄り添った看護をしたいという強い思いがあったからです。患者さん一人ひとりの背景や価値観に目を向け、患者さんにご家族の歩みに寄り添い、ともに考え、その人らしさを引き出す看護を追求しています。



大切にしていること

3 階西病棟には、脳神経外科・脳神経内科の患者さんが入院されています。なかでも、脳梗塞や脳出血、頭部外傷など、突然発症し緊急の治療を必要とする患者さんが多く、病棟全体の約 8 割を占めています。また、パーキンソン病などの神経の病気と向き合いながら治療を続けている患者さんも入院されています。

脳の病気になると、手足が動かしくい、言葉が出にくく、意識に影響が出たりと、これまで当たり前にできていたことが難しくなり、生活が大きく変わることがあります。

私たちは、治療を安全に受けていただくことはもちろん、一人ひとりの症状や患者さんの生活に合わせた看護を大切にしています。着替えやトイレ、ベッドから椅子へ移動、食事などの日常生活における一つひとつを回復につなげる大切な機会とし、リハビリスタッフとも協力して早期の身体機能の回復を目指して支援しています。さらに、医師や薬剤師、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携し、患者さんにご家族の思いに寄り添い「これからどのような生活を送りたいか」を一緒に考え、入院生活後も安心してその人らしく暮らしていけるよう支援しています。



「できること」を少しずつ増やすために



脳卒中を発症した直後は、ベッドで過ごす時間が長くなります。しかし、長く寝たままでいると筋力が低下し、さらに身体を動かすことが難しくなる場合があります。そこで病棟では、患者さんの体調や状態を見ながら、まずは身体を起こすことから始め、足を床につける、ベッドから離れて過ごすというように、一人ひとりに合わせて少しずつ活動を進めていきます。身体を起こすことで意識がはっきりしたり、「動いてみようかな」という気持ちにながったりすることもあります。



病棟には、脳卒中リハビリテーションを専門とする看護師も在籍しています。専門的な知識や技術をスタッフと共有しながら、病棟全体で患者さんの回復を支えています。また、患者さんの身体の回復だけでなく、入院中も心の安らぎや楽しさを感じていただくことを大切にしています。簡単なゲームなどレクリエーションを行い、ベッドから離れて人と関わったり、楽しみながら身体や頭を使ったりすることは、脳への刺激にもつながります。身体面と精神面から看護師が寄り添うことで、患者さんの心身のバランスが整い、病気に向き合う力を支えていくことが私たちの看護の役割であると考えています。

慢性疾患看護専門看護師として



「患者さんの『その人らしい生活』を支える看護を目指して」

脳の病気によっては、入院後の生活を考える上で、今までの生活を脅かす可能性があります。患者さんの意思が家族や医療者には伝えられなくなったり、今後の生活において社会への復帰が難しい状況になったりすることもあります。患者さんの意思を言葉で確認することが難しい場合でも、これまでの生活や大切にしてきたこと、人生における価値観を理解し、その人らしさを尊重した看護を実践していけるように活動しています。

おわりに



これからも、患者さんが病気と向き合いながらも、自分らしい生活への一步を踏み出せるように、医師・看護スタッフ、多くの専門職と力を合わせ、患者さんにご家族の思いに寄り添いながら、地域の皆様に安心していただける看護を届けていきたいと思ひます。

